

令和4年度大阪府非鉄金属製造関連産業最低賃金

専門部会資料

資料1	大阪府非鉄金属製造関連産業最低賃金専門部会運営規程	1
資料2	令和4年度最低賃金専門部会の審議に関する了解事項	3
資料3	令和4年度特定最低賃金の改正決定に係る申出状況	5
資料4	申出書	7
資料5	大阪府非鉄金属製造関連産業最低賃金の改正決定について（答申）（写）	9
資料6	最低賃金の改正決定等について（諮問）（写）	11
資料7	令和4年度特定最低賃金改正申出に係る審議の流れ	13
資料8	非鉄金属製造関連産業の改正申出にかかる 企業内最低賃金に関する労働協約一覧表	15
資料9	令和4年度改正の必要性の有無に係る意見書 （労働者側） （使用者側）	17 21
資料10	大阪府内の最低賃金リーフレット	27
資料11-1	令和4年春季賃上げ妥結状況（最終報）	29
資料11-2	令和4年春季賃上げ妥結状況（詳細分析報告）	37

大阪地方最低賃金審議会
大阪府非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業
最低賃金専門部会運営規程

(規程の目的)

第1条 この規程は、大阪地方最低賃金審議会大阪府非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業最低賃金専門部会（以下、「専門部会」という。）の議事に関し、最低賃金法（昭和34年法律第137号）及び最低賃金審議会令（昭和34年政令第163号）に定めるもののほか、必要な事項について定めるものである。

(委員)

第2条 専門部会は、公益を代表する委員3人、労働者を代表する委員3人及び使用者を代表する委員3人をもって組織し、委員の総数を9人とする。

(会議の招集)

第3条 専門部会の会議（以下、「会議」という。）は、当該部会の長（以下、「部会長」という。）が必要と認めたときのほか、大阪労働局長（以下、「局長」という。）又は3人以上の委員から開催の請求があったとき、部会長が招集する。ただし、年度最初の会議は、大阪地方最低賃金審議会会長（以下、「審議会会長」という。）が招集する。

2 前項の規定により、局長又は委員が会議の開催を請求しようとする場合には、付議事項及び希望期日を、少なくとも当該期日の1週間前までに、部会長に通知しなければならない。

3 部会長は、会議を招集しようとするときには、緊急やむを得ない場合のほか、少なくとも3日前までに、付議事項、日時及び場所を委員に通知するとともに、局長に通知するものとする。

(委員の出席等)

第4条 部会長が必要であると認めるときは、テレビ会議システム（映像と音声の送受信により、相手の状態を相互に認識しながら通話することができるシステムをいう。次項においても同じ。）を利用する方法によって、会議に出席することができる。

2 テレビ会議システムを利用する方法による会議の出席は、最低賃金審議会令第6条第6項により準用する同令第5条第2項及び第3項に規定する会議への出席に含めるものとする。

3 委員は、病気その他の事由によって会議に出席できないときは、その旨を部会長に適当な方法で通知しなければならない。

4 委員は、旅行その他の事由によって長期間不在になるときは、あらかじめ部会長に適当な方法で通知しなければならない。

(会議の進行)

第5条 部会長は、会議の議長となり、議事を整理する。

2 委員は、会議において発言しようとするときは、部会長の許可を受けるものとする。

3 専門部会は、部会長が必要と認めるときには、委員でない者の説明又は意見を聴くことができる。

(会議の公開)

第6条 会議は、原則として非公開とする。

(議事録及び議事要旨)

第7条 会議の議事については、議事録及び議事要旨を作成するものとする。

2 議事要旨は原則として公開する。

(報告)

第8条 部会長は、会議において最低賃金法及び最低賃金審議会令に基づいて議決を行ったときには、その審議結果について、審議会会長に対して報告するものとする。

(略称)

第9条 専門部会の略称は「大阪地方最低賃金審議会大阪府非鉄金属製造関連産業最低賃金専門部会」とする。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、専門部会の議決に基づいて行う。

附 則

この規程は、平成16年9月13日から施行する。

この規程は、平成25年9月9日から施行する。

この規程は、平成30年8月29日から施行する。

改 正 この規程は、令和3年8月26日から施行する。

令和4年度最低賃金専門部会の審議に関する了解事項

令和4年7月6日

大阪地方最低賃金審議会は、各最低賃金専門部会の運営に関する事項について、下記のとおり了解する。

記

地域別最低賃金専門部会

1 最低賃金審議会令第6条第5項の適用

地域別最低賃金専門部会（以下「地賃部会」という。）において、全会一致で議決された場合は、最低賃金審議会令（昭和34年政令163号）（以下「令」という。）第6条第5項の規定に基づき、地賃部会の決議をもって大阪地方最低賃金審議会（以下「審議会」という。）の決議とする。

2 審議結果の審議会への報告

審議結果は、当該審議における議決が全会一致であるか否かにかかわらず、すべて審議会に報告する。

3 審議の基本方針

審議は、自主性発揮等の観点から以下の基本方針に基づいて行うものとする。

- (1) 大阪労働局長から大阪府最低賃金の改正の決定について審議会に対して諮問がなされた場合は、効率的な審議に資するよう、中央最低賃金審議会から地方最低賃金審議会に対して地域別最低賃金額改正の目安が提示される前であっても、調査審議を開始すること。
- (2) 前記(1)の調査審議は、大阪府下の最低賃金を取り巻く実情等を十分考慮して行うこと。
- (3) 改定最低賃金額の早期発効に努めるとともに、従来の経緯を尊重しつつ円滑な調査審議を行うこと。
- (4) 議決は、全会一致となるよう努めること。

4 地賃部会の廃止

任務を終了したときは、地賃部会を廃止する。

特定最低賃金専門部会

1 特定最低賃金専門部会の任務

特定最低賃金専門部会（以下「特賃部会」という。）は、特定最低賃金（以下「特賃」という。）の決定又は改正決定の調査審議のほか、必要に応じ、これらの必要性の有無についての調査審議を行う。

2 令第6条第5項の適用

特賃部会において、全会一致で議決された場合は、令第6条第5項に基づき、特賃部会の決議をもって審議会の決議とする。

3 審議結果の審議会への報告

審議結果は、当該審議において全会一致で議決されない場合は、審議会へ報告する。

4 審議の基本方針

- (1) 改定最低賃金額の早期発効に努めるとともに、従来の経緯を尊重しつつ円滑な調査審議を行うこと。
- (2) 審議は、拙速に陥らないように十分に配意し、適正な金額を示すこと。

5 特賃部会の廃止

任務を終了したときは、特賃部会を廃止する。

令和4年度 特定最低賃金の改正決定に係る申出状況

令和4年6月30日現在

最低賃金の件名及び産業分類	意向改正年月日	申出者	労働者数	合意労働者数 (割合)	備考
改 正	令和4年2月25日 令和4年6月29日	大阪府塗料製造業最低賃金 (E160, 1644, L7282)	2,114	1,155 (54.6%)	労働協約ケース
		大阪府鉄鋼業最低賃金 (E22, L7282)	17,469	6,590 (37.7%)	労働協約ケース
正	令和4年2月25日 令和4年6月29日	大阪府非鉄金属・同合金圧延業、 電線・ケーブル製造業最低賃金 (E230, 233, 234, L7282)	4,741	2,894 (61.0%)	労働協約ケース
		大阪府はん用機械器具製造業、 生産用機械器具製造業、業務用機械器具製造業、 暖房・調理等装置、配管工事用附属品、金属線製品製造業、 船舶製造・修理業、船用機関製造業最低賃金 (E240, 243, 247, 25, 260, 261, 262, 2635, 2645, 2652 2691, 2692, 2694, 270, 271, 272, 310, 313, L7282)	55,955	23,602 (42.2%)	労働協約ケース
決 定	令和4年2月25日 令和4年6月29日	大阪府電子部品・デバイス・電子回路、 電気機械器具、 情報通信機械器具製造業最低賃金 (E28, 29 (E2941, 297を除く), 30, L7282)	32,251	31,240 (96.9%)	労働協約ケース
		大阪府自動車・同附属品製造業最低賃金 (E310, 311, L7282)	14,211	6,536 (46.0%)	労働協約ケース
	令和4年2月25日 令和4年6月29日	大阪府自動車小売業最低賃金 (I590, 591 (I5914を除く), L7282)	19,611	7,403 (37.7%)	労働協約ケース

※ 労働者数は、平成28年度経済センサス 事業所母集団データベース (30年次フレーム) から算出

2022年6月29日

大阪労働局 局長

木原 亜紀生 様

全電線大阪地方協議会

議長 濱島大輔

アルミ関連労協

議長 中浦太一

全国伸銅労働組合連合会

会長 森 義仁

申 出 書

最低賃金法第15条1項の規定により、大阪府非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業の最低賃金の改正決定を求める申出を行うことに合意し、下記の通り申し出る。

記



1. 申出する者が代表する基幹的労働者の範囲

特定（産業別）最低賃金改正にあたり合意した労働者数 2,894 人

2. 最低賃金の適用を受けるべき基幹的労働者の範囲

大阪府において、非鉄金属・同合金圧延業（抽伸、押出しを含む）、電線・ケーブル製造業を営む使用者に使用される労働者。ただし、次に掲げる者は除く。

- (1) 18歳未満又は65歳以上の者
- (2) 雇入れ後3月未満の者であって、技能習得中の者
- (3) 次に掲げる業務に主として従事する者
 - ・清掃又は片付けの業務
 - ・ワイヤーハーネスの製造に係る業務のうち、手工具若しくは小型動力工具を使用して行う組線、取付け、かしめ、又は刻印の業務

以上

適用労働者数：4,741 人

3. 改正決定を申し出る最低賃金の件名

大阪府非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業最低賃金

4. 申出の内容

上記3の最低賃金の改正を求める。なお、最低賃金額は、最低賃金法第15条第2項に基づく最低賃金審議会の決定による。

5. 申出の理由

賃金の最低額に関する労働協約の適用労働者がおおむね3分の1に達していることから法定最低賃金の改定決定を求めるものである。

賃金の最低額に関する労働協約の適用される基幹的労働者数	2,894人
大阪府における非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業を営む使用者に使用される基幹的労働者数	4,741人
= 61.0% > おおむね3分の1以上	
労働協約上の賃金の最も低い額 = 1,053円/時間額	
改正決定の場合は現在適用されている法定最低賃金額 = 993円/時間	

6. 添付書類

①労働協約の写し、②申出合意書及び委任状、③その他申出に係る関係資料

以上



令和3年9月29日

大阪労働局長
木暮 康二 殿

大阪地方最低賃金審議会
会 長 服部 良子

大阪府非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業最低賃金
の改正決定について（答申）

当審議会は、令和3年7月6日付け大労発基 0706 第2号をもって貴職から諮問のあった標記のことについて、慎重に審議を重ねた結果、別紙のと通りの結論に達したので答申する。

なお、本答申は、最低賃金審議会令第6条第5項の規定に基づく専門部会の決議によるものであることを申し添える。

大阪府非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業最低賃金を次のとおり改正決定すること。

1 適用する地域

大阪府の区域

2 適用する使用者

前号の地域内で非鉄金属・同合金圧延業（抽伸，押出しを含む）、電線・ケーブル製造業、これらの産業において管理，補助的経済活動を行う事業所又は純粋持株会社（管理する全子会社を通じての主要な経済活動が非鉄金属・同合金圧延業（抽伸，押出しを含む）又は電線・ケーブル製造業に分類されるものに限る。）を営む使用者

3 適用する労働者

前号の使用者に使用される労働者。ただし、次に掲げる者を除く。

(1) 18歳未満又は65歳以上の者

(2) 雇入れ後3月未満の者であって、技能習得中のもの

(3) 次に掲げる業務に主として従事する者

イ 清掃又は片付けの業務

ロ ワイヤーハーネスの製造に係る業務のうち、手工具若しくは小型動力工具を使用して行う組線、取付け、かしめ又は刻印の業務

4 前号の労働者に係る最低賃金額

1時間993円

5 この最低賃金において賃金に算入しないもの

精皆勤手当、通勤手当及び家族手当

6 効力発生の日

令和3年12月1日



大労発基 0706 第 2 号
令和 4 年 7 月 6 日

大阪地方最低賃金審議会
会長 服部 良子 殿

大阪労働局長
木原 亜紀生

最低賃金の改正決定等について（諮問）

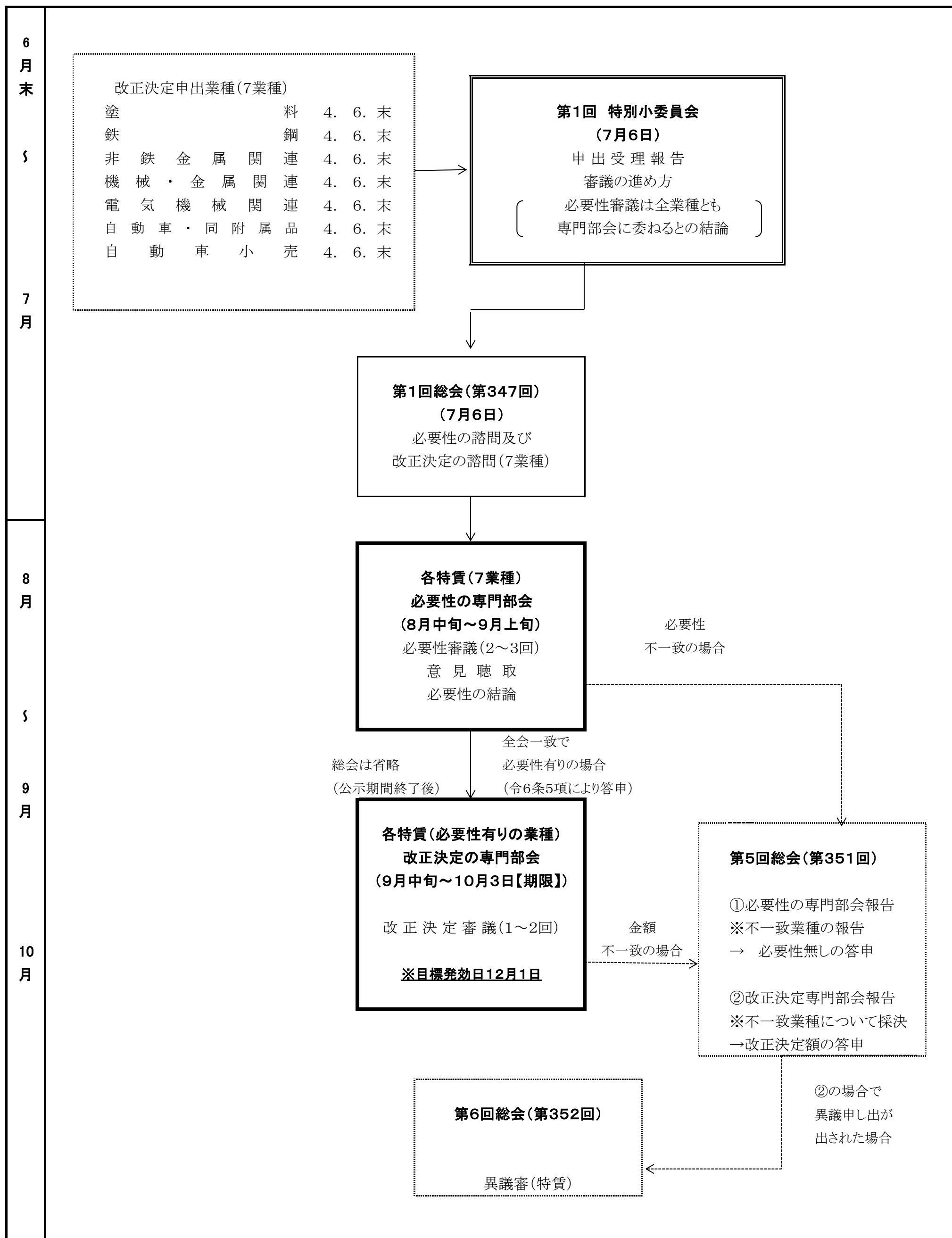
最低賃金法（昭和 34 年法律第 137 号）第 15 条第 1 項の規定に基づき、下記の最低賃金の改正決定に関する申出があったので、同法第 21 条の規定により、その必要性の有無について、貴会の意見を求める。また、貴会における審議の結果、下記の最低賃金のうち、改正決定することを必要と認めるとの結論に達した最低賃金の改正決定について、同法第 15 条第 2 項の規定に基づき、併せて貴会の調査審議をお願いする。

記

- ・ 大阪府塗料製造業最低賃金
- ・ 大阪府鉄鋼業最低賃金
- ・ 大阪府非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業最低賃金
- ・ 大阪府はん用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、業務用機械器具製造業、暖房・調理等装置、配管工事用附属品、金属線製品製造業、船舶製造・修理業、船用機関製造業最低賃金
- ・ 大阪府電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業最低賃金
- ・ 大阪府自動車・同附属品製造業最低賃金
- ・ 大阪府自動車小売業最低賃金

令和4年度 特定最低賃金改正申出に係る審議の流れ

資料7



非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業の改正申出にかかる企業内
最低賃金に関する労働協約一覧

資料8

現行法定最低賃金額
時間額 993円

事業所番号	適用労働者数 (名)	所定労働時間数 (時間)	所定労働日数 (日)	令和4年協約金額		
				月額(円)	日額(円)	時間額(円)
A	2,007	157.58	20.33	169,000	—	1,072
B	357	157.58	—	166,000	—	1,053
C	530	159.33	—	171,700	—	1,080
合計	2,894					

※網かけ部分は、協定額のうち最低額。

令和4年度 改正の必要性の有無に係る意見書



特定最低賃金名	非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業 最低賃金
労使側	

1. 大阪府における特定最低賃金の改正の必要性の有無に係る意見をお聞かせください。
 - ・非鉄金属産業も大阪府の製造業の中で高い構成比を占めている「金属製品産業」や「鉄鋼業」と仕事の内容・求められる技量について、変わらないと考えます。また、アルミ関連労協内の企業における高卒初任給の時間額は1,000円を超えています。各企業においては、若年層の定着率が悪く、従業員の高年齢化が進んでおり、人手不足が顕著です。熟練技能の継承や人材確保のためにも、最低限「金属製品産業」や「鉄鋼業」の特定最低賃金額への引き上げが必要と考えます
2. 上記1の判断をされた理由（根拠）を、以下の項目ごとにお示してください。
 - ①産業の実態〔経営実績、支払能力等〕
 - ・新型コロナの影響で需要は低迷していましたが、現在は新型コロナ感染症拡大前のレベルまで戻っており、アルミは脱炭素社会に向けて、車体の軽量化を中心に需要が高まると見込まれています。
 - ・昨年度後半は、地金価格の高騰によるコスト増が顕在化しましたが、圧延部門が利益を伸ばし、増益となった企業も多く存在している。
 - ②賃金の実態〔一般賃金の改定状況（額・率）等〕

2022年アルミ関連労協（大阪府下の5労組）春闘の結果
平均賃上げ額：約4,600円（昨年比：約+150円）（単純平均）
 - ③生活の実態〔物価、標準生活費等〕
 - ・消費者物価は、エネルギー価格を中心に大きく上昇しており、今後さらに上昇すると予想されている中、賃金の伸びが追いついておらず、生活はますます苦しくなっていくと思われる。最低賃金のアップにより、非鉄金属業界が魅力ある働きがいのある産業にする必要があると考える。
3. その他
 - ・カーボンニュートラルによる自動車のEV化や自動車や鉄道車両等の軽量化が進み、更には脱プラにより、飲料品の容器がペットボトルからアルミ缶へのシフトも進んでおり、アルミの需要は増加すると考えられる。今後も多方面への需要展開が見込まれている。

○ 記述責任者（意見の出所を明らかにしてください。）

氏 名： 西田 勝彦

記述年月日：2022年 7月 22日

令和4年度 改正の必要性の有無に係る意見書



特定最低賃金名	非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業 最低賃金
労 側	

1. 大阪府における特定最低賃金の改正の必要性の有無に係る意見をお聞かせください。

当該産業全体の賃金を底上げし、産業の魅力を高めて人材を確保する観点、労使の社会的使命として非正規雇用で働く労働者の処遇改善を図る観点、産業の健全な発展を図る観点などから、賃金水準の改善に取り組む必要がある。

2. 上記1の判断をされた理由（根拠）を、以下の項目ごとにお示しください。

①産業の実態〔経営実績、支払能力等〕

電線産業の動向は、2022年5月23日に（一社）日本電線工業会が公表した統計データによると、2021年度の銅電線出荷量は、各分野の合計量は63万400トンで前年度比1.2%増となり内外需ともに前年度を上回りました。

2022年度の銅電線需要見通しについては、建設・電販部門では、コロナ禍終息後の設備投資需要の回復や都市再開発案件が期待されていること、自動車部門では半導体供給の懸念から自動車生産台数の回復は鈍いが、電動化の進展は続くことなどから、コロナ禍前の水準には届かないものの65万3,000トンと前年度比4.0%増の予測がされています。

電線関連産業の上場企業6社の2021年度通期連結決算については、売上高は全社で増収、営業・経常利益は5社で増益となり、コロナ禍の影響を大きく受けた2020年度から業績が回復しました。

2022年度通期連結決算見通しについては、売上高は全社で増収、営業・経常利益は5社で増益と予測されています。

②賃金の実態〔一般賃金の改定状況（額・率）等〕

全電線加盟単組（34単組）の賃金構造維持分については、全単組で確保することができました。

賃金改善については、全34単組が要求した結果、31単組で獲得でき、有額回答を得られた単組の単純平均で1,291円となりました。

初任給や企業内最低賃金については、2014年以降で最も多い24単組で回答を引き出しました。引き上げ額でみても初任給は平均で3,099円、企業内最低賃金についても平均で3,480円と2014年以降で最も高い引き上げ額となりました。

特定(産業別)最低賃金については、当該地域のお他産業(非鉄・電線を除く6業種)の金額改定をみると平均で996円となるなか、「非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業」においては依然として平均を下回る993円の状況にあります。また、対地域別最低賃金との比率においても100.1%と優位性もほとんどない状況が続いています。

③生活の実態〔物価、標準生活費等〕

2022年5月20日に総務省統計局が公表した「2020年度基準 消費者物価指数 4月分」によると、生鮮食料品を除く総合指数は101.4（前年同月比+2.1%）と、ロシアのウクライナ侵攻により原油や天然ガスなどの供給不安が国際的に高まったことからエネルギー価格が上昇し、7年1ヵ月ぶりに2%を超える上昇率となりました。

2022年5月10日に総務省統計局が公表した「家計調査」によると、2021年度平均（2人以上勤労者世帯）において前年度と比較すると、実収入は実質で横ばい、可処分所得は名目、実質ともに減少しました。

勤労者の生活実態は、地政学的リスクや物価の高騰、社会保険料や新型コロナの影響など、現状の生活や将来への不安が増幅しています。

3. その他

○ 記述責任者（意見の出所を明らかにしてください。）

氏 名： 住友電気工業労働組合大阪支部 支部執行委員 毛利 直貴

記述年月日： 令和4年 7月 15日



令和4年度 改正の必要性の有無に係る意見書

特定最低賃金名	非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業 最低賃金
労 側	

1. 大阪府における特定最低賃金の改正の必要性の有無に係る意見をお聞かせください。
- ・非鉄金属産業は大阪府における非鉄金属等製造業で働く労働者の賃金は労働組合が有る組織化された企業においては春闘時の交渉において賃金水準が毎年引き上げられている。しかし、労働組合の無い中小は企業においては大阪府における最低賃金の水準で働く労働者も少なくない。また、企業内最賃の協定を結んでいる企業では高卒初任給の時給額は優に1,000円を超えており特定最賃の引き上げは可能と考える。
 - ・優秀な人材を確保するための特定最賃の引き上げは必要と考える。
 - ・特定最賃の基本的な考えである基幹的労働者を定めることにより大幅な引き上げ額が可能と考える。

2. 上記1の判断をされた理由（根拠）を、以下の項目ごとにお示しください。

①産業の実態〔経営実績、支払能力等〕

伸銅品の2021年暦年の生産量はすべての品種で対前年比プラスに転じの17.7%増の約77万2千トンとなりした。新型コロナウイルス感染症前の水準には及ばなかったものの特に自動車や半導体向けを中心に回復が鮮明となって銅条はコロナ前の水準を上回り各社繁忙を極め大型設備投資がされています。

今後、従来の需要分野の回復に加えて、EV、5G、IoT、DX、新エネルギー、抗菌などの需要拡大が進むものと期待しています。

日本伸銅協会の伸銅品の2022年度伸銅品需要見通しは、791.8千トン（2021年度比+2.4%）と予想しています。

②賃金の実態〔一般賃金の改定状況（額・率）等〕

全国伸銅労働組合連合会の2022春闘結果では賃金引上げは殆どの単組で昨年を大きく上回りました。結果、平均で6,910円（前年比+2,204円）となりました。年間一時金も前年比を大きくプラスとなり結果、平均で1,071,258円（前年比+316,191円）となりました。足元の需要回復が顕著に表れた結果と言えます。

③生活の実態〔物価、標準生活費等〕

ガソリン価格や燃料費、エネルギー費の上昇により、公共料金の値上げや更には輸入小麦粉値上げによる加工品の値上がりで物価が上昇し私たちの生活に直結し大きな影響を及ぼしています。賃金の底上げが必要です。

○ 記述責任者（意見の出所を明らかにしてください。）

氏 名： 全国伸銅労働組合連合会 会長 森 義 仁

記述年月日：2022年 7 月 19 日

令和4年度 改正の必要性の有無に係る意見書

特定最低賃金名	非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル業 最低賃金
使 側	

1 大阪府における特定最低賃金の改正の必要性の有無に係る意見をお聞かせください。
 本年度の最低賃金については、過去最高の引き上げ額となった昨年と同等以上が予想されている。この背景には、物価高は食料やエネルギーといった生活必需品の物価高騰や、製造業を中心に企業の収益が大幅に増加していることがある。外食や旅行、娯楽等の第三次産業は予断を許さない状況ではあるものの、政府は出来る限り早期に最低賃金の全国加重平均が1,000円以上となることを目指している。諸背景を踏まえると最低賃金の改定は必要だと考えるが、既に特定最低賃金と大阪府最低賃金の差がほぼ無い状況が続いていることや後述2. ②の賃金の実態を踏まえると、特定最低賃金の改定は必要ないと考える。

2 上記1の判断をされた理由（根拠）を以下の項目ごとにお示しください。

① 産業の実態〔経営実績、支払能力等〕

2021年度の伸銅品生産量は2020年度比17.7%増、77万トンを超え4年ぶりに前年度を超えた。半導体や自動車部がけん引し、コロナ禍前の2019年度を上回る水準となった。本年3月に日本伸銅協会から発表された2022年度の伸銅品需要見通しは79万トンと2021年度比+2.4%となっている。

7月26日の伸銅協会の月別生産量速報値では昨年とほぼ同量の生産量で推移している。

② 賃金の実態〔一般賃金の改定状況（額・率）等〕

連合が公表した2022年春季労使交渉の結果においては、定昇を含む平均賃上げ率は2.07%、額にして6,004円（前年同時期比+0.29%、824円増）

となり、コロナ禍前の2%台の水準に回復した。また、賃上げ分が分かる組合のう

記述年月日：令和4年7月27日

ち、中小組合は2015年以降で最も高い賃上げを実現している（賃上げ率0.72%、1,772円）。有期・短時間・契約等労働者の時間給平均賃上げ率は2.29%、額にして3.52円（前年同期3.52円）と賃上げ率は一般組合を上回る結果となった。企業内最低賃金協定の改定に取組んだ組合も昨年比で増加し、協定額の引き上げが図られている。

③ 生活の実態〔物価、標準生活費等〕

2022年6月分の全国の消費者物価指数の総合指数は、2020年を100として101.8。前年同月比は2.2%の上昇、前月比は0.2%の上昇。2021年4月以降、上昇を続け、高止まりしている状況。

3 その他

非鉄金属製造関連産業の特定最低賃金と大阪府最低賃金の差は、2014年、2015年が2円、2円以下2017年以降は1円となっており、差額1円/時を月額にすると174円程度となる。この賃金差が熟練技能の継承や優秀人材、業界の魅力発信に繋がるものとなっているのかは疑問である。今年の春闘において、契約社員の時間給の賃上げ率は一般組合員を超える結果も出ており、また、企業内最低賃金協定の改定も増加しており、産業別ではなく、個別の企業における労使間協議によって賃金も含めた魅力ある労働条件を作り上げていくべきと思料する。

○ 記述責任者（意見の出所を明らかにしてください。）

氏名 三菱マテリアル(株) 伊藤 香代



記述年月日：令和4年7月27日

令和4年度 改正の必要性の有無に係る意見書

特定最低賃金名	非鉄金属・同合金圧延、電線ケーブル製造 業 最低賃金
労・使 側	

1 大阪府における特定最低賃金の改正の必要性の有無に係る意見をお聞かせください。
ウクライナ情勢により円安傾向が続いており、今後の世界情勢も不透明なため、改正の必要性は認められない。

2 上記1の判断をされた理由（根拠）を以下の項目ごとにお示しください。

① 産業の実態〔経営実績、支払能力等〕

昨年も記載した通りで、当社が属する業界については、他社において、ファンドへの事業売却や事業縮小と言った厳しい状況に立たされている。市場の環境として箔地の輸入が5月時点で、前年比約26%増、日本からの輸出が約16%減となっており、市場も業界も一段と厳しさを増している。また、地金においても価格上昇は一旦止まったものの高止まり（日経5月価格：436.8千円/t [昨年同比33.7%UP]）しており、業績の圧迫の一因になっている。

② 賃金の実態〔一般賃金の改定状況（額・率）等〕

本年度は高卒者の初任給に関して、工場がある首都圏の地方最低賃金（神奈川県：1,040円）において近年の上昇を踏まえると来年には下回る見込みであるため、現業職の若年層で賃金是正を行った。定昇も実施し、合わせて、2%弱の水準である。

③ 生活の実態〔物価、標準生活費等〕

物価は上昇傾向（5月：2.5%）にあり、特にエネルギー費の上昇は懸念材料ではあるが、このような状況下でも大幅な物価上昇に至っていない。

④ その他

3 その他

○ 記述責任者（意見の出所を明らかにしてください。）

東洋アルミニウム株式会社 人事総務ユニットリーダー

氏名 氏江 達之

記述年月日：令和4年7月22日



令和4年度 改正の必要性の有無に係る意見書

特定最低賃金名	大阪府非鉄金属・同合金圧延業、電線・ケーブル製造業 最低賃金
労(使)側	

1 大阪府における特定最低賃金の改正の必要性の有無に係る意見をお聞かせください。
景気の先行きは依然として不透明であり、雇用の維持を優先させることとし、当特定最低賃金の今回改正の必要性はないと考える。

2 上記1の判断をされた理由(根拠)を以下の項目ごとにお示しください。

① 産業の実態〔経営実績、支払能力等〕

電線工業会がまとめた2021年度の銅電線出荷数量は62万8千トンと、前年度比で輸出部門は3%増となったものの全体では微増にとどまり、コロナウイルス感染拡大前の水準には及ばない状況である。一方、国内光ファイバーケーブル実績については、公共関連は減となるものの公衆通信、一般民需部門が増となり、前年度比約16%増加し、3年連続増となった。電線各社は、業態による差が大きく、一括りに総括することはできないが、業績は回復しているものの全般的に利益水準は低く、引き続き、持続的・安定的な収益体質への転換が急務となっていることに変わりはない。また、収益の柱を海外に依存している会社も多く、世界経済の影響を大きく受ける。米中の貿易摩擦、世界的に流行している新型コロナウイルス感染症の影響等多くの下振れリスクを抱えており、「先行きは依然不透明で、極めて不確実性が高い」と言わざるをえない状況にある。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の新たな変異株の感染拡大リスク、資源価格や原材料価格の上昇、半導体供給面での制約、ロシア・ウクライナ情勢や中国での経済活動抑制の影響が残る中で、先行きは不透明な状況であり、経営資源に余裕のない中堅・中小の各社は更なる合理化努力を必要とすることは明らかである。

記述年月日：令和4年7月22日

② 賃金の実態〔一般賃金の改定状況（額・率）等〕

2022年春季交渉については、ベースアップを実施した企業であっても、2%前後の水準に留まるという状況であった。足下、予断の許されない経営環境にあって、中堅・中小企業においては、賃金改訂の原資確保が経営を大きく圧迫することになるものと判断される。

③ 生活の実態〔物価、標準生活費等〕

消費者物価指数（生鮮食料品を除く）が10ヶ月連続で上昇している中で、個人消費は持ち直しの動きがみられる。先行きについては、コロナウイルスへの感染対策が講じられ経済社会活動の正常化が進む中で、持ち直していくことが期待されるが、ロシア・ウクライナ情勢、中国の経済動向の影響等、日本経済は先行き不透明な状況にある。

④ その他

特になし

3 その他

特になし

○ 記述責任者（意見の出所を明らかにしてください。）

氏名 安永 朋功



記述年月日：令和4年7月22日

令和3年度大阪府内の最低賃金

大阪府最低賃金	時間額(発効年月日)	適用の範囲
	992円 (令和3年10月1日)	大阪府内の事業場で働くすべての労働者とその使用者
特定最低賃金件名	時間額(発効年月日)	適用が除外される方
塗料製造業	1,000円 (令和3年12月1日)	次の業務に主として従事する方 (1)ラベルはりの業務 (2)手作業による空き缶及びふたの取り そろえ並びに充てんラインへの送給、 包装、箱詰め、袋詰め、こん包又は 18リットル缶未満の充てん製品運搬 の業務 (1)18歳未満又は65歳 以上の方 (2)雇入れ後3月未満の 技能習得中の方 (3)清掃又は片付けの 業務に主として 従事する方
鉄鋼業	996円 (令和4年1月22日)	
はん用機械器具製造業、 生産用機械器具製造業、 業務用機械器具製造業、 暖房・調理等装置、配管工事用附属品、 金属線製品製造業、 船舶製造・修理業、 船舶用機関製造業	997円 (令和3年12月1日)	
自動車・同附属品 製造	998円 (令和3年12月1日)	
電子部品・デバイス・電子回路、 電気機械器具、 情報通信機械器具製造業	994円 (令和3年12月1日)	
非鉄金属・同合金圧延業、 電線・ケーブル製造業	993円 (令和3年12月1日)	
自動車小売業	993円 (令和3年12月1日)	
		次の業務に主として従事する方 (1)手作業による包装又は袋詰め業務 (2)部品の組立て又は加工の業務のうち、 手工具又は小型動力工具を使用して 行う組線、取付け、かしめ、巻線若しく は刻印の業務 主としてワイヤーハーネスの製造に係る 業務のうち、手工具若しくは小型動力工具 を使用して行う組線、取付け、かしめ又は 刻印の業務に従事する方

賃上げをご検討の事業主の皆様へ 支援制度のご案内

- ①中小企業・小規模事業者の状況に応じた専門家による無料相談
- ②業務改善助成金・キャリアアップ助成金など、賃上げに伴う助成金
- ③他省庁が行う、賃上げに伴う補助金、税制控除、融資の支援策

詳しくは裏面を
ご覧ください



最低賃金についてご不明の点がございましたら 大阪労働局労働基準部賃金課 (電話06-6949-6502)

または 最寄りの労働基準監督署へお問い合わせください。

賃上げ・就業環境整備をご検討の 事業主の皆様へ

事業主支援制度のご案内



支援制度 1 中小企業・小規模事業者の状況に応じた 支援制度を提案します！

～社会保険労務士などの専門家が無料でご相談に応じます～

大阪働き方改革推進支援・賃金相談センターでは、長時間労働の是正や同一労働・同一賃金の実現など、「働き方改革関連法への対応」に関する相談窓口を設けております。

働き方改革に取り組み、社員のモチベーションアップ・生産性の向上を目指しませんか。

●専門家（社会保険労務士）が、相談窓口はもちろん、電話・メール・訪問など、ご希望の形で相談支援を行います。

●「人材確保のための労務改善」「新型コロナウイルス感染症への対応」などのご相談にも対応します。

●就業規則の改定、労働時間管理や賃金制度の見直し、各種助成金の紹介等に対応します。

●地方公共団体・事業主団体・経済団体等が開催するセミナーや研修会に講師を派遣します。

詳しくは **大阪働き方改革推進支援・賃金相談センター**

大阪市北区天満2-1-30 大阪府社会保険労務士会館5階 TEL:0120-068-116

受付:平日9:00～17:00（水曜のみ18:00まで） Email:hatarakikata@sr-osaka.jp

HP:<https://hatarakikatakaikaku.mhlw.go.jp/top/consultation/osaka.html>



どの支援が合うか迷ったら、
このセンターに相談してみてもね！

支援制度 2 賃金上げを応援する制度

●業務改善助成金 ※中小企業向け 「特例コース」延長！（令和4年7月29日まで）

生産性向上のための設備投資等を行い、事業場内最低賃金を一定額以上上げた場合、その設備等にかかった費用の一部の助成を受けることができる制度です。

※特例コースでは、令和3年7月16日～12月31日に**合計30円以上の引上げ（遡って引上げも可）**で申請可能。

詳しくは **業務改善助成金コールセンター** TEL:0120-366-440

もしくは**大阪労働局雇用環境・均等部 企画課分室 助成金第一係**

大阪市中央区大手前4-1-67 大阪合同庁舎9階 TEL:06-7223-8943



●キャリアアップ助成金（賃金規定等改定コース）※中小企業以外も利用可能

すべて、または一部の有期契約労働者等の基本給の賃金規定等を2%以上増額改定し、昇給させた場合に助成を受けることができる制度です。（業務改善助成金と併給調整になる場合があります）

●雇用調整助成金等の要件緩和 ※中小企業向け

業況特例等の対象となる中小企業が事業場内で最も低い時間給を一定以上引き上げる場合、令和3年10月から令和4年3月までの休業については、休業規模要件を問わず支給します。

詳しくは **大阪労働局職業安定部 雇用保険課 助成金センター**

大阪市中央区常盤町1-3-8 中央大通FNビル9階 TEL:06-7669-8900



●その他の賃上げ支援制度 ※中小企業向け

(1)中小企業等事業再構築促進事業

経済社会の変化に対応する思い切った事業再構築を支援する補助金。最低賃金枠を創設し、業況が厳しく最低賃金近傍の従業員が一定数以上の事業者には補助率・採択率を優遇

詳しくは、**事業再構築補助金事務局コールセンター：0570-012-088**

(2)中小企業向け賃上げ促進税制（令和3年度まで「所得拡大促進税制」）

青色申告書を提出している中小企業や個人事業主が、一定の要件を満たしたうえで賃金上げを行った結果、その増加額の一定割合を法人税額（個人事業主は所得税額）から控除できる制度

詳しくは、**中小企業税制サポートセンター：03-6281-9821**

(3)企業活力強化貸付（働き方改革推進支援資金）

事業場内で最も低い賃金（事業場内最低賃金）の引上げに
取り組む事業主に対し、設備資金や運転資金を特別利率で融資

詳しくは、**日本政策金融公庫：0120-154-505**



(1) (2) (3)



令和4年6月6日(月)午後2時

連絡先

大阪府商工労働部雇用推進室労働環境課
地域労政グループ 裏野・長宗

▽直通 06-6946-2606

令和4年 春季賃上げ要求・妥結状況

最終報

【集計組合数:391 組合(加重平均)】

【調査時点:5月24日現在】

□ 妥結額 5,967円(前年:5,422円)

□ 賃上げ率 2.00%(前年:1.83%)

【調査結果の特徴点】

- 全体平均では、妥結額、賃上げ率ともに4年ぶりに増加を示す。
- 産業別の妥結額は、製造業が非製造業より高くなっている。

■大阪府商工労働部雇用推進室労働環境課は、今年の府内労働組合の春季賃上げの妥結状況等をまとめました。

■本集計は、定期昇給及びベースアップ(またはこれらに相当する賃上げ額)の合計額を記載しています。

■6月13日に本調査の詳細分析(同一の組合による対前年比較)を当課ホームページに掲載します。

併せてご参照ください。

◆大阪府労働環境課 ホームページ

<http://www.pref.osaka.lg.jp/sogorodo/chousa/list3505.html>

右記のQRコードからもご覧いただくことができます。



本調査の調査対象・集計方法

■本調査は、府内に所在する約 1,700 組合を調査対象として実施し、5月 24 日までに妥結額が把握できた 479 組合のうち、平均賃金額、組合員数が明らかな 391 組合(137, 988 人)について集計(加重平均・組合員一人あたり平均)しました。

【集計方法について】

加重平均は以下の方法で算出しています。

加重平均＝(各組合の妥結額×各組合の組合員数)の合計/各組合の組合員数の合計

経済的背景と要求・交渉経過

(1)経済的背景と労使交渉等の動向

- ・令和3年 11 月 26 日に開催された「第3回新しい資本主義実現会議」において、岸田総理は、「成長の果実を国民一人ひとりが実感できる新しい資本主義を実現する鍵は『人』への投資にある」とし、民間の労使に対して、「来年の春闘において、業績がコロナ前の水準を回復した企業について、3%を超える賃上げを期待する」と述べ、民間企業で働く労働者の賃上げに期待感を示しました。
- ・内閣府は、令和4年2月 17 日に公表した月例経済報告において、「景気は、持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる」とし、また、先行きについては、「感染対策に万全を期し、経済社会活動を継続していく中で各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、感染拡大による影響や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある」などとする判断を示しました。
- ・その一週間後の2月 24 日にロシアがウクライナへの侵攻を開始すると、翌 25 日の記者会見において岸田総理は、「ロシアに対する制裁措置の強化・実施」を明らかにするとともに、「原油など燃料価格高騰に対して、国民生活や企業活動への悪影響を最小限に抑える」ことを明らかにしました。
- ・こうした国際情勢や経済的背景のもと、金属労協(JCM)を構成する産業別労働組合傘下の組合では、2月下旬までに要求書を提出し、3月 16 日の集中回答日に向けて大手組合を中心に回答の引き出しが進められました。また、中堅・中小組合においても3月末までの決着をめざして精力的な交渉が展開されました。
- ・内閣府が4月 21 日に公表した月例経済報告では、景気の先行きについて、「ウクライナ情勢による不透明感がみられる中で、原材料価格の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある」との判断が示され、加えて、5月9日に行われたG7テレビ会議をふまえた首脳声明において「ロシア産原油の原則禁輸措置」を採ることが明らかにされました。
- ・こうした状況のもと、燃料価格高騰の影響により経営環境に厳しさが増している中小企業を中心に、現在も多くの企業労使による交渉が継続されています。

(2)労働団体及び経済団体の春闘における主張(概要)

労働側	経営側
<p>○連合「連合白書(2022 春季生活闘争の方針と課題)」(令和3年12月)</p> <p>〈基本的な考え方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所定内賃金で生活できる賃金水準を意識して「人への投資」を継続的に行うことが必要である。とりわけ、中小企業や有期・短時間・契約等で働く者の賃金を「働きの価値に見合った水準」に引き上げることをめざし、「分配構造の転換につながり得る賃上げ」に取り組む。 ・すべての組合が月例賃金の改善にこだわり、それぞれの賃金水準を確認しながら、「底上げ」「底支え」「格差是正」の取り組みをより強力に推し進める。 <p>〈具体的な要求指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賃上げ分2%程度、定期昇給相当分(賃金カーブ維持相当分)を含め4%程度の賃上げを目安とする。 ・企業内最低賃金協定 1,150 円以上 <p>○全労連・国民春闘共闘委員会「22 年国民春闘方針」(令和4年1月)</p> <p>〈基本的な考え方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低賃金の全国平均の 1.1 倍以下で働く人の割合は 2020 年に 14.2%となり、2009 年の 7.5%から 10 年で倍増しており、低賃金で働く人が増えている。 ・非正規労働者や低賃金の正社員が増えたことが要因の1つで、コロナ禍が脆弱な雇用構造に追い打ちをかけている。 ・正規・非正規雇用、移住労働者を問わず、すべての労働者の実質賃金の減少分を解消し、ベースアップによる実質賃金の引上げと年間収入増実現をめざす。 <p>〈具体的な要求指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賃上げ要求:月額 25,000 円以上 時間額 150 円以上 ・最低賃金要求:時間額 1,500 円以上 	<p>○経団連「2022 年版経営労働政策特別委員会報告」(令和4年1月)</p> <p>〈基本的な考え方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業と働き手を取り巻く環境変化への対応の必要性や、コロナ禍で影響を受けている産業・企業への配慮、積極的な「人への投資」の重要性が今次労使交渉における議論の土台となる。 ・中小企業の賃金引上げが重要とはいえ、実態から大きく乖離した要求水準を掲げることは慎重に検討すべきと考える。企業労使で自社の経営状況等を十分共有することが望ましく、その上で、連合や産業別労働組合など上部団体の示す要求指標を参考としつつ、建設的な賃金交渉・協議の実施に資する要求が提案され、自社に適した着地点が労使で見出されることを期待する。 ・コロナ禍が長期化し、業種や企業ごとの業績のばらつきが大きくなっている状況下では、社内外の考慮要素を総合的に勘案しながら、適切な総額人件費管理の下、自社の支払い能力を踏まえ、労使協議を経た上で各企業が賃金を決定する「賃金決定の大原則」を堅持することの重要性が 2021 年に増して高まっている。 ・収益が高い水準で推移・増大した企業においては、制度昇給の実施に加え、ベースアップの実施を含めた、新しい資本主義の起動にふさわしい賃金引上げが望まれる。 ・コロナ禍の影響により収益が十分に回復していない・減少した企業においては、事業継続と雇用維持を最優先にしながら、労使で徹底的に議論し、自社の実情に適った対応を見出すことが望まれる。

調査結果の概要

(1) 妥結額・賃上げ率の推移【P5「妥結額・賃上げ率の年次推移」参照】

全体平均では、妥結額 5,967 円(前年:5,422 円)、賃上げ率 2.00%(前年:1.83%)となり、妥結額、賃上げ率ともに 4 年ぶりに増加となりました。

(2) 企業規模別の妥結状況【P6「企業規模別の妥結状況」参照】

企業規模別の妥結額をみると、

「299 人以下」が、5,476 円(対前年比:716 円増、15.0%増)

「300 から 999 人」が、5,867 円(対前年比:719 円増、14.0%増)

「1,000 人以上」が、6,026 円(対前年比:480 円増、8.7%増)となり、全ての規模で増加となりました。

(3) 産業別の妥結状況【P7「産業別の妥結状況」参照】

産業別(大分類)の妥結額は、製造業の妥結額平均が 6,307 円、非製造業の妥結額平均が 5,582 円となり、製造業が非製造業より高くなっています。

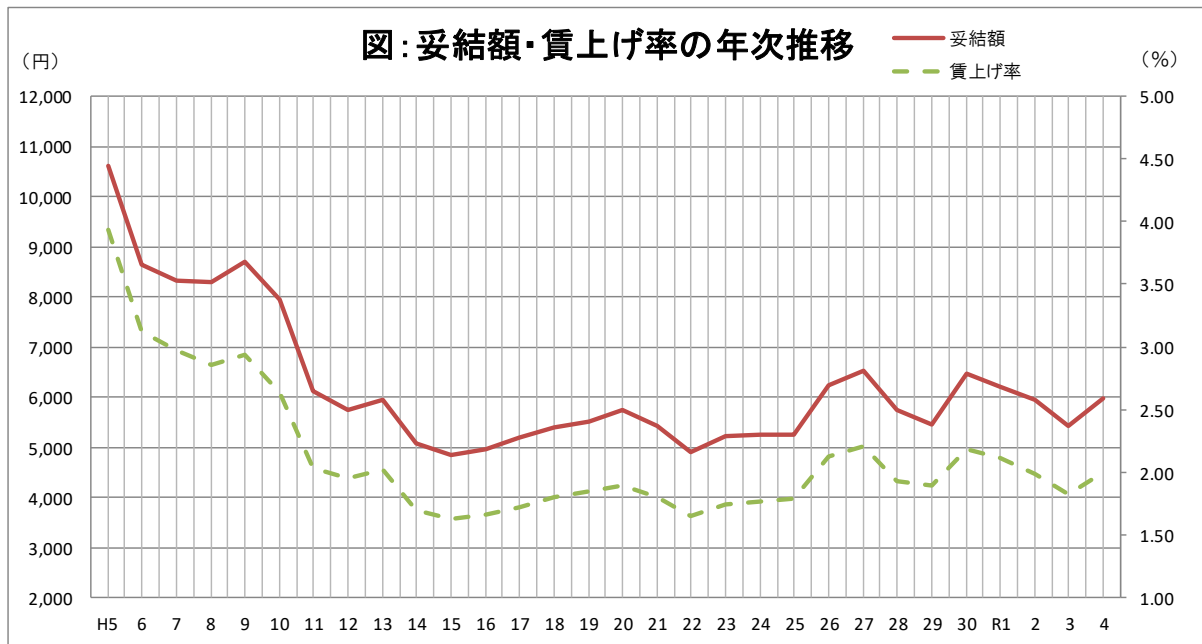
なお、全体平均(5,967 円)と比べて妥結額が高かった業種は、「化学(8,782 円)」、「複合サービス事業、サービス業(8,410 円)」、「機械器具(7,944 円)」等となりました。

一方、低かった業種は、「非鉄金属(2,306 円)」、「運輸業・郵便業(4,692 円)」、「卸売・小売業(5,316 円)」等となりました。

■ 妥結額・賃上げ率の年次推移

年	集計組合数	妥結額		賃上げ率	
		金額(円)	前年との差(円)	賃上げ率(%)	前年との差(ポイント)
H5	585	10,614	—	3.93	—
6	554	8,632	▲ 1,982	3.12	▲ 0.81
7	450	8,316	▲ 316	2.97	▲ 0.15
8	492	8,289	▲ 27	2.86	▲ 0.11
9	453	8,691	402	2.94	0.08
10	391	7,952	▲ 739	2.64	▲ 0.30
11	453	6,115	▲ 1,837	2.04	▲ 0.60
12	798	5,733	▲ 382	1.95	▲ 0.09
13	669	5,957	224	2.02	0.07
14	473	5,086	▲ 871	1.70	▲ 0.32
15	473	4,836	▲ 250	1.63	▲ 0.07
16	446	4,961	125	1.66	0.03
17	476	5,198	237	1.72	0.06
18	503	5,388	190	1.80	0.08
19	522	5,503	115	1.85	0.05
20	505	5,739	236	1.89	0.04
21	391	5,426	▲ 313	1.80	▲ 0.09
22	397	4,903	▲ 523	1.65	▲ 0.15
23	363	5,221	318	1.75	0.10
24	417	5,239	18	1.77	0.02
25	409	5,265	26	1.79	0.02
26	395	6,239	974	2.13	0.34
27	400	6,513	274	2.21	0.08
28	417	5,743	▲ 770	1.93	▲ 0.28
29	468	5,465	▲ 278	1.89	▲ 0.04
30	394	6,463	998	2.18	0.29
R1	337	6,201	▲ 262	2.11	▲ 0.07
2	305	5,950	▲ 251	1.99	▲ 0.12
3	416	5,422	▲ 528	1.83	▲ 0.16
4	391	5,967	545	2.00	0.17

要求額	
集計組合数	金額(円)
434	7,883
447	8,361
455	7,448
364	8,250
344	6,677
318	7,077
385	6,379
370	6,689
380	8,548
361	10,604
392	9,408
411	8,638
374	9,492
308	9,660
287	9,528
403	8,365
375	9,191



※加重平均集計は平成5年より開始しました。

※要求額は、最終報の調査時点において把握できた組合の集計結果であり、集計を開始した平成18年より記載しています。

※各年の要求額は、その年の最終報時点で要求額・組合員数・平均賃金額が把握できた組合の加重平均を表しています。

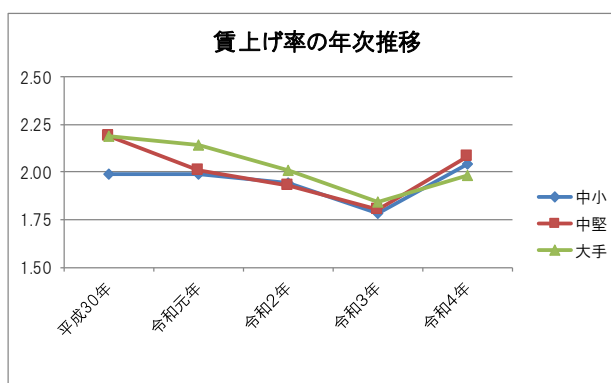
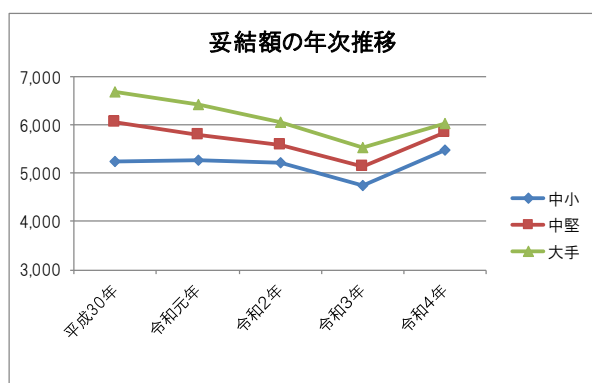
令和4年は、375組合の集計結果を表しています。

■ 企業規模別の妥結状況

企業規模 (従業員数)		集計組合数	平均賃金額 (円)	妥結額 (円)	賃上げ率 (%)
299人 以下の 内訳	29人以下	15	294,991	4,486	1.52
	30～99人	87	258,494	5,377	2.08
	100～299人	97	271,977	5,529	2.03
299人以下		199	268,858	5,476	2.04
300～999人		73	282,485	5,867	2.08
1,000人以上		119	304,189	6,026	1.98
総平均		391	298,887	5,967	2.00

■ 企業規模別 妥結額・賃上げ率の年次推移

		平成30年		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年	
		妥結額 (円)	賃上げ率 (月)	妥結額 (円)	賃上げ率 (月)	妥結額 (円)	賃上げ率 (月)	妥結額 (円)	賃上げ率 (月)	妥結額 (円)	賃上げ率 (月)
299人 以下の 内訳	29人以下	3,687	1.37	6,171	2.37	4,256	1.44	5,246	1.89	4,486	1.52
	30～99人	5,184	2.01	5,043	1.94	4,591	1.78	4,132	1.63	5,377	2.08
	100～299人	5,282	2.00	5,350	2.00	5,461	2.00	4,921	1.82	5,529	2.03
299人以下		5,244	1.99	5,281	1.99	5,233	1.94	4,760	1.78	5,476	2.04
300～999人		6,073	2.19	5,789	2.01	5,582	1.93	5,148	1.80	5,867	2.08
1,000人以上		6,683	2.19	6,420	2.14	6,060	2.01	5,546	1.84	6,026	1.98



※各年の妥結額は、その年の最終報時点で、妥結額・組合員数・平均賃金額が把握できた組合の加重平均を表したものです。

■産業別の妥結状況（集計組合数：391組合）【加重平均】

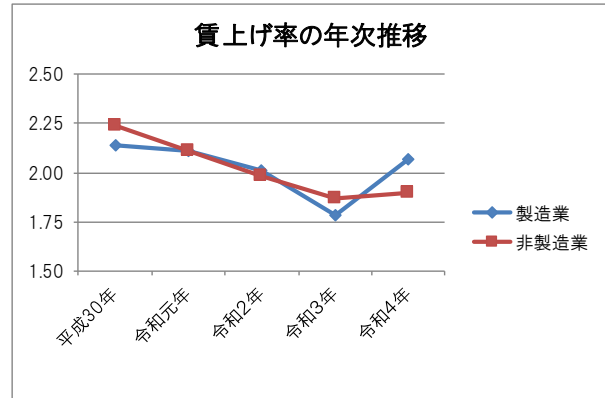
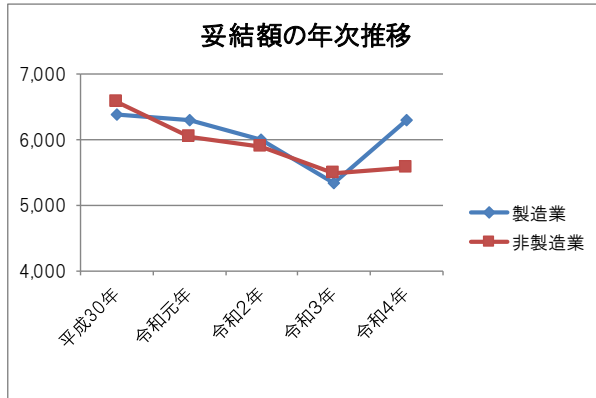
産業	集計組合数 (組合)	妥結人数 (人)	平均賃金 (円)	妥結額 (円)	賃上げ率 (%)	【参考】 要求額 (円)
全産業計	391	137,988	298,887	5,967	2.00	9,191
製造業平均	276	73,119	304,060	6,307	2.07	8,837
食料品・たばこ	29	4,490	313,029	5,550	1.77	7,936
繊維、衣服	28	5,102	291,082	6,922	2.38	8,776
木材、家具・装備品	3	742	282,600	5,244	1.86	7,024
パルプ・紙・紙加工品	5	568	267,530	4,779	1.79	6,741
印刷・同関連	5	7,765	286,810	3,005	1.05	9,258
化学	33	7,465	352,113	8,782	2.49	10,655
石油・石炭製品						
プラスチック製品	3	537	246,931	8,014	3.25	8,404
ゴム、皮革製品	3	247	237,862	4,142	1.74	7,237
窯業・土石製品	3	281	259,114	4,572	1.76	7,197
鉄鋼	18	2,373	310,458	6,018	1.94	10,915
非鉄金属	14	3,574	311,482	2,306	0.74	3,971
金属製品	43	7,939	261,550	5,471	2.09	8,341
機械器具	66	15,391	307,622	7,944	2.58	10,275
電子部品・デバイス						
電気機械器具	10	2,481	290,808	5,796	1.99	8,633
情報通信機械器具						
輸送用機械器具	11	13,764	317,417	6,839	2.15	7,994
その他の製造	2	400	272,754	5,304	1.94	8,418
非製造業平均	115	64,869	293,055	5,582	1.90	9,588
農林水産業						
鉱業・採石・砂利	1	23	246,966	5,000	2.02	5,000
建設業	2	553	261,583	3,134	1.20	6,003
電気・ガス・熱供給・水道業	1	3,484	332,900	7,100	2.13	7,800
情報通信業	15	885	311,908	6,268	2.01	11,956
うち、通信・放送						
うち、情報サービス	1	11	154,109	1,000	0.65	7,500
うち、情報制作(出版等)	14	874	313,894	6,335	2.02	12,012
運輸業・郵便業	28	13,997	304,616	4,692	1.54	10,949
うち、私鉄・バス等	5	8,801	306,854	5,516	1.80	11,788
うち、道路貨物輸送	12	4,004	314,743	3,307	1.05	10,837
うち、郵便業						
うち、その他	11	1,192	254,080	3,269	1.29	5,364
卸売・小売業	46	34,549	291,260	5,316	1.83	8,982
金融・保険業、不動産、物品賃貸業	1	3,033	285,298	5,097	1.79	10,404
うち、金融・保険業						
うち、不動産業	1	3,033	285,298	5,097	1.79	10,404
うち、物品賃貸業						
学術研究、専門・技術サービス業	2	505	278,435	2,402	0.86	2,412
飲食店、宿泊業	3	855	284,644	6,709	2.36	8,697
生活関連サービス業、娯楽業	2	36	294,558	3,779	1.28	7,363
医療、福祉、教育、学習支援業	4	104	287,800	5,088	1.77	27,558
うち、教育・学習支援業	4	104	287,800	5,088	1.77	27,558
うち、医療・福祉						
複合サービス事業、サービス業	10	6,845	264,094	8,410	3.18	10,955
うち、複合サービス事業	5	4,160	235,558	5,603	2.38	9,736
うち、自動車整備・機械修理	1	209	259,213	7,162	2.76	9,606
うち、賃貸・広告業						
うち、その他	4	2,476	312,451	13,232	4.23	13,117

※集計組合数が少ない業種は、平均額の精度が十分でないと思われることから、結果の利用にはご注意ください。

※要求額は、最終報時点で要求額・組合員数・平均賃金額が明らかな 375 組合の集計結果を表しています。

■産業別 妥結額・賃上げ率の年次推移

	平成30年		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年	
	妥結額 (円)	賃上げ率 (月)	妥結額 (円)	賃上げ率 (月)	妥結額 (円)	賃上げ率 (月)	妥結額 (円)	賃上げ率 (月)	妥結額 (円)	賃上げ率 (月)
製造業	6,380	2.14	6,312	2.11	5,998	2.01	5,341	1.78	6,307	2.07
非製造業	6,586	2.24	6,053	2.11	5,907	1.98	5,493	1.87	5,582	1.90



※各年の妥結額は、その年の最終報時点での妥結額・組合員数・平均賃金額が把握できた組合の加重平均を表したものです。

■参考 単純平均の結果一覧(発表時期別 要求・回答・妥結状況)

	令和4年 発表日	要求		回答		妥結	
		令和4年	令和3年	令和4年	令和3年	令和4年	令和3年
第1報	4月4日	567組合	601組合	171組合	110組合	101組合	58組合
		14,213円	11,546円	5,918円	4,306円	6,403円	5,707円
第2報	4月20日	657組合	658組合	377組合	415組合	273組合	286組合
		13,934円	11,393円	5,200円	4,657円	5,838円	5,072円
第3報	5月13日	706組合	713組合	478組合	542組合	413組合	450組合
		13,839円	11,574円	5,226円	4,490円	5,315円	4,535円
最終報	6月6日	735組合	773組合	514組合	616組合	479組合	575組合
		13,652円	12,729円	5,227円	4,702円	5,227円	4,709円

※本表では、組合員数や平均賃金額が把握できたか否かを問わず、要求額・回答額・妥結額のすべてもしくはいずれかが把握できた組合をすべて集計対象としています。

■参考 年間一時金・夏季一時金の回答・妥結状況(最終報時点)

区分	集計組合数	内容	回答・妥結額
回答	65組合	年間一時金	1,259,777円
妥結	157組合	夏季一時金	601,040円

※本集計は、春闘時に合わせて年間一時金または夏季一時金の交渉を実施している組合において単純平均し集計したものです。

※夏季一時金の調査結果については、6月15日以降に順次、発表します。

令和4年6月13日(月)午後2時

連絡先

大阪府商工労働部雇用推進室労働環境課
地域労政グループ 裏野・長宗
▽直通 06-6946-2606

令和4年 春季賃上げ妥結状況

詳細分析報告

【同一の組合による対前年比較】

(調査時点:5月24日現在)

(加重平均(組合員1人あたり平均))

(集計組合数:336組合)

【全体結果】(表1)

項目	令和4年	令和3年	対前年比
妥結額	6,135円	5,338円	797円増 (14.9%増)
賃上げ率	2.06%	1.85%	0.21ポイント増

【主な特徴点】

- 妥結額、賃上げ率ともに前年に比べ増加を示す。
- すべての企業規模で前年に比べ増加を示す。
- 産業別では、製造業、非製造業ともに前年に比べ増加を示す。
製造業では9割を超える業種で増加を示し、非製造業では5割の業種で増加を示す。

○大阪府商工労働部雇用推進室労働環境課は、今年の府内労働組合の春季賃上げの妥結状況について、前年からの妥結額等の動きを詳細に把握するため、5月24日までに「妥結額」、「組合員数」、「平均賃金額」が把握できた391組合*のうち、前年の妥結額についても把握できた336組合(今年、昨年の同一の組合)について、対前年比較及び詳細な分析を行いました。

*この391組合を対象とした加重平均結果については、6月6日公表の令和4年春季賃上げ要求・妥結状況(最終報)をご覧ください。

○詳細な分析結果については次ページ以降をご覧ください。

調査結果の詳細分析【集計組合数:336 組合】

(1) 妥結額の状況【1ページ・表1 参照】

本年調査では、妥結額6,135円(前年:5,338円)と、対前年比797円増・14.9%増となり、前年を上回る結果となりました。

(2) 企業規模(従業員数)別の妥結状況【下の表2 参照】

企業規模別の妥結額における対前年比較では、

「299人以下」が、対前年比 623 円増・12.7%増（令和4年:5,543 円 令和3年:4,920 円）

「300 から 999 人」が、対前年比 669 円増・11.9%増（令和4年:6,297 円 令和3年:5,628 円）

「1,000人以上」が、対前年比 833 円増・15.6%増（令和4年:6,161 円 令和3年:5,328 円）となりました。

(表2) 企業規模別の妥結状況

企業規模 (従業員数)		集計組合数 (組合)	妥結額 (円)		対前年比		
			令和4年	令和3年	金額(円)	増減率(%)	増減傾向 (※)
299人 以下の 内訳	29人以下	14	4,494	5,357	▲ 863	▲ 16.1	
	30～99人	74	5,311	4,403	908	20.6	
	100～299人	83	5,641	5,076	565	11.1	
299人以下		171	5,543	4,920	623	12.7	↗
300～999人		59	6,297	5,628	669	11.9	↗
1,000人以上		106	6,161	5,328	833	15.6	↗
総加重平均		336	6,135	5,338	797	14.9	
総単純平均(参考)			5,828	5,085	743	14.6	

※増減傾向は、5%以上の増減率を太矢印、1%以上5%未満の増減率を細矢印、1%未満の増減率を横矢印で示しています。

(3)産業別の妥結状況【4, 5ページ・表4-(1), (2) 参照】

産業別(大分類)における対前年比較では、製造業が 6,498 円(対前年比 1,373 円増、26.8%増)、非製造業が 5,793 円(対前年比 255 円増、4.6%増)となりました。

製造業では、増減傾向(矢印)を記載した 16 業種のうち 15 業種でプラス傾向となりました。

非製造業では、増減傾向(矢印)を記載した 12 業種のうち 6 業種でプラス傾向、2 業種でほぼ横ばいとなりました。

なお、集計組合数が 10 組合以上あった業種のうち、前年と比べ増減率の高い業種は下記表のとおりです。

(表3) 産業別の妥結状況(加重平均)のうち、前年と比べ増減率の高かった上位 3 業種・下位 1 業種

	集計 組合数 (組合)	組合 員数 (人)	妥結額		対前年比			コメント 【主な特徴点など】
			令和4年 (円)	令和3年 (円)	金額 (円)	増減率 (%)	増減傾向	
機械器具	59	14,785	8,027	5,597	2,430	43.4	↗	7割を超える組合がプラス妥結したことに加え、一部の組合員数の多い大手組合において大幅なプラス妥結となったことが、全体の平均額を押し上げている。
繊維、衣服	26	5,013	6,987	5,652	1,335	23.6	↗	9割を超える組合でプラス妥結となっている。
化学	28	5,848	9,194	8,106	1,088	13.4	↗	前年と同額で妥結した5組合を除くすべての組合においてプラス妥結となっている。
卸売、小売業	40	32,474	5,485	5,681	▲ 196	▲ 3.5	↘	全体としてマイナス傾向となっているが、組合によってバラツキがあり好不調の判断が難しい。

※ 本集計では、集計組合数が 10 組合以上の業種のうち、減少傾向にある業種が1業種のみでした。

※ 増減傾向は、5%以上の増減率を太矢印、1%以上5%未満の増減率を細矢印、1%未満の増減率を横矢印で示しています。

(表4-1) 産業別の妥結状況(製造業)【加重平均】

	集計 組合数 (組合)	組合 員数 (人)	妥結額		対前年比		
			令和4年 (円)	令和3年 (円)	金額 (円)	増減率 (%)	増減傾向 (※2)
製造業	240	55,745	6,498	5,125	1,373	26.8	↗
食料品・たばこ	26	4,381	5,550	5,020	530	10.6	↗
繊維、衣服	26	5,013	6,987	5,652	1,335	23.6	↗
木材、家具・ 装備品	3	742	5,244	4,300	944	22.0	↗
パルプ・紙・ 紙加工品	5	568	4,779	4,860	▲ 81	▲ 1.7	↘
印刷・同関連	4	7,754	3,006	1,221	1,785	146.2	↗
化学	28	5,848	9,194	8,106	1,088	13.4	↗
石油・石炭製品							↘
プラスチック製品	2	477	8,141	6,150	1,991	32.4	↗
ゴム、皮革製品	2	177	4,395	3,637	758	20.8	↗
窯業・土石製品	2	202	4,798	4,308	490	11.4	↗
鉄鋼	17	2,288	6,056	5,592	464	8.3	↗
非鉄金属	9	521	6,458	5,767	691	12.0	↗
金属製品	38	7,338	5,496	4,994	502	10.1	↗
機械器具	59	14,785	8,027	5,597	2,430	43.4	↗
電子部品・ デバイス							↘
電気機械器具	10	2,481	5,796	5,213	583	11.2	↗
情報通信 機械器具							↘
輸送用機械器具	7	2,770	7,529	6,499	1,030	15.8	↗
その他の製造	2	400	5,304	4,843	461	9.5	↗

※1 集計組合数が少ない業種は、平均額の精度が十分でないことから、結果の利用にはご注意ください。

※2 増減傾向は、5%以上の増減率を太矢印、1%以上5%未満の増減率を細矢印、1%未満の増減率を横矢印で示しています。

(表4-(2)) 産業別の妥結状況(非製造業)【加重平均】

	集計 組合数 (組合)	組合 員数 (人)	妥結額		対前年比		
			令和4年 (円)	令和3年 (円)	金額 (円)	増減率 (%)	増減傾向 (※2)
非製造業	96	59,173	5,793	5,538	255	4.6	↗
農林水産業							↘
鉱業・採石・砂利	1	23	5,000	2,500	2,500	100.0	↔
建設業	2	553	3,134	3,310	▲ 176	▲ 5.3	↘
電気・ガス・熱供給・水道業	1	3,484	7,100	7,070	30	0.4	→
情報通信業	14	882	6,276	6,270	6	0.1	→
うち、通信・放送							↘
うち、情報サービス	1	11	1,000	1,000	0	0.0	
うち、情報制作(出版等)	13	871	6,342	6,336	6	0.1	
運輸業・郵便業	20	11,745	5,061	4,986	75	1.5	↗
うち、私鉄・バス等	3	8,069	5,773	5,850	▲ 77	▲ 1.3	↘
うち、道路貨物輸送	9	3,505	3,440	3,091	349	11.3	
うち、郵便業							
うち、その他	8	171	4,708	3,058	1,650	54.0	
卸売・小売業	40	32,474	5,485	5,681	▲ 196	▲ 3.5	↘
金融・保険業、不動産、物品質貸業	1	3,033	5,097	4,818	279	5.8	↔
うち、金融・保険業							↘
うち、不動産業	1	3,033	5,097	4,818	279	5.8	
うち、物品質貸業							
学術研究、専門・技術サービス業	2	505	2,402	3,824	▲ 1,422	▲ 37.2	↘
飲食店、宿泊業	1	46	4,355	4,821	▲ 466	▲ 9.7	↘
生活関連サービス業、娯楽業	2	36	3,779	3,609	170	4.7	↗
医療、福祉、教育、学習支援業	4	104	5,088	3,582	1,506	42.0	↔
うち、教育・学習支援業	4	104	5,088	3,582	1,506	42.0	↘
うち、医療・福祉							
複合サービス事業、サービス業	8	6,288	8,836	5,619	3,217	57.3	↔
うち、複合サービス事業	4	4,074	5,599	4,905	694	14.1	↘
うち、自動車整備・機械修理	1	209	7,162	7,515	▲ 353	▲ 4.7	
うち、賃貸・広告業							
うち、その他	3	2,005	15,588	6,873	8,715	126.8	

※1 集計組合数が少ない業種は、平均額の精度が十分でないことから、結果の利用にはご留意ください。

※2 増減傾向は、5%以上の増減率を太矢印、1%以上5%未満の増減率を細矢印、1%未満の増減率を横矢印で示しています。